

黒毛和種繁殖雌牛における牛白血病の地域的清浄化達成と今後の課題

紀北家畜保健衛生所

○山中克己 樽本英幸

黒田順史

【背景・目的】

全国的に牛白血病（BL）届出頭数は年々増加しており、県産肉用牛でも事例が発生した（図1）。また、平成23年頃の全国調査では肉用牛の約30%が牛白血病ウイルス（BLV）の抗体陽性であり、BLVが蔓延していることが判明している。

そこで当所では、管内の農家の将来を守るため、生産の上流段階である黒毛和種繁殖雌牛を優先的な対象とすることが重要であると考え、5年間にわたりBLV浸潤状況調査及び指導を実施した。その中で、管内の黒毛和種繁殖雌牛飼養農家全戸（9戸・208頭）が所属する紀北和牛改良組合（組合）が積極的に清浄化を実施する方針を定め、当所と協同し管内全域の清浄化に取り組んだ。

【浸潤状況調査・取り組みの経緯】

●平成23年度～24年度：初めての調査及び戸別指導

各畜主へBLの概要やリスクを説明し、初めて黒毛和種繁殖雌牛の調査を実施。平成23年度は156頭（9戸）、平成24年度は124頭（6戸）を調査し11頭が抗体陽性。当所が戸別に清浄化対策を指導したところ、各畜主は陽性牛の自主淘汰を決意し、陽性牛を全頭淘汰。

●平成25年度：前年度調査農家の継続調査

120頭（6戸）を調査し、全頭抗体陰性。

●平成26年度：組合指導

124頭（6戸）を調査し、全頭抗体陰性。当所が組合へBLの説明をしたところ、「原則、陽性牛の即時淘汰」を組合の方針として決定。

●平成27年度：管内全戸・全頭調査

管内黒毛和種繁殖雌牛全頭である208頭（9戸）を調査し、2頭（1戸）が抗体陽性。当所の家畜衛生だより（6月号）や国の衛生対策ガイドラインに基づき組合へ指導したところ陽性牛全頭が淘汰され、現時点において地域の清浄化を達成。当該事例は全国的に少ない事例である。

【組合の意見】

清浄化の取り組みを実施した際、組合の意見として「非感染牛から後継牛や肥育素牛を生産したい」、「子牛を購入した肥育農家へ迷惑をかけたくない」、「個人よりも組織や地域として清浄化に取り組んだ方が効果的」などがあり、つまりは安心して子牛生産しな

がら自分たちの信用を守りたいという考えであった。

【考察】

地域的清浄化を達成できた要因は大きく2つあり、抗体陽性牛がもともと少なかったこと、そして、生産者の理解・決断・行動があったことである。つまり、生産者がBLを経営のリスクと判断し、経営的及び心情的に痛みを伴う淘汰を実行した。また、この理解醸成に関しては、当所との信頼関係が構築されていたためであると考えられる。

清浄化達成は繁殖和牛農家及び肥育農家の健全経営に寄与するとともに、組合員の生産意欲を向上させ、育種・改良、その他の家畜伝染病対策、繁殖成績改善、畜産クラスター事業参画等、積極的な姿勢へ変化させた。

【今後】

今後は継続的に浸潤調査等を実施し、地域の清浄性を維持することが必要である。そのためには、国のガイドラインに沿った基本的な感染予防対策と浸潤調査を継続し、地域外導入牛の早期検査を実施しなければならない。

【今後の課題】

現在、繁殖和牛農家は地域外からの導入自粛等により、改良・増頭において不利な状況に陥っており、大きなデメリットとストレスを抱えている。以上より、全国的な早期BL清浄化対策を進めるとともに、BL清浄農家がモチベーションを維持するための施策や制度が必要な段階に至ったと考える。

【参考文献等】

1) 農林水産省：牛白血病に関する衛生対策ガイドライン